

## 芸術科「美術」シラバス

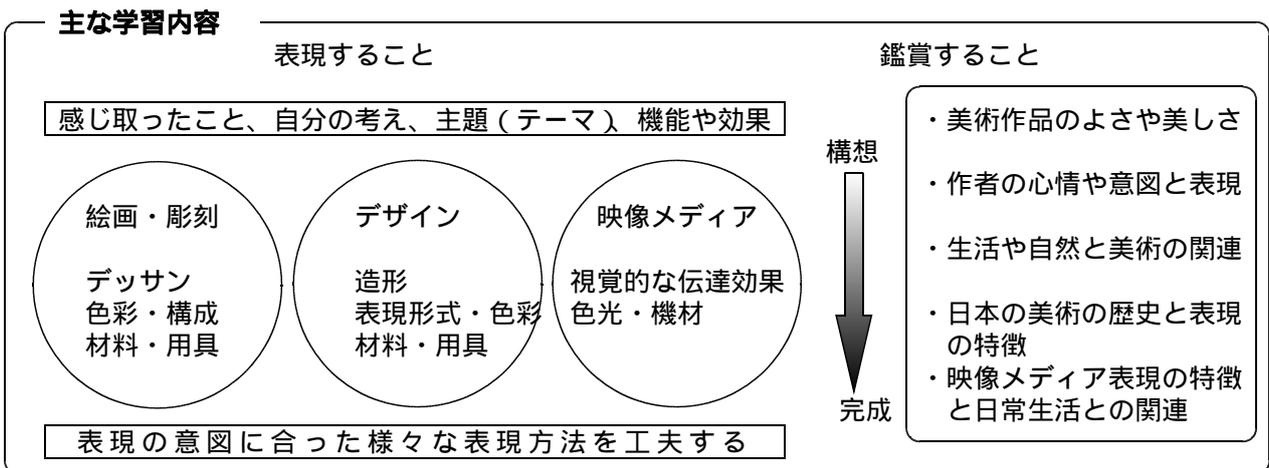
《 2単位 通年》

美術とは、目に見え、手に感じられる形としてなにか美しいものをつくりだすことです。この表現方法には、絵画や彫刻、デザインなどの長い歴史のあるものだけでなく、現代になって急速に進歩した映像メディアやコンピュータなどを駆使したものもあります。

みなさんの中にも、このような新しい表現方法に対する興味・関心があり、ライフスタイルに生かしたいとか、将来の進路につなげたいとか考えている人がいると思います。美術では、みなさんのこうした思いを尊重しながら、幅広い美術の表現方法について、作品制作や鑑賞を通じて学びます。

一年間学んでいく中で、美しさ、人間の喜びや悲しみを形・色・材料を通して表現する活動は、人類の歴史とともに続いている大切な営みであることに気づいてくれると思います。「絵画や彫刻なんて古いもので興味がない」、「映像やコンピュータ・シミュレーションを仕事にしたいから、もっとその領域を学びたい」と思う人たちも、素直な心でこの科目を選択し、授業に臨んでください。

<b>学習のねらい</b>	美術の表現や鑑賞の基礎を学び、さまざまな創造活動に必要な技能を高めます。 自分のよさを発見し、美しさを感じ取る感性を高め、表現する楽しさや作品の完成の喜びを味わいます。 表現及び鑑賞における幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心の大切さを実感します。
<b>教科書副教材</b>	高校美術1（日本文教出版） スケッチブック、水彩画用具（中学校で使ったものを利用してかまいません。） それぞれの題材や活動に必要な材料は、半期ごとに購入してもらいます。



<b>授業で守ってほしいこと</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞には落ち着いた雰囲気が必要です。授業はチャイムと同時に始めますので、教材、用具を準備し、着席をしてはじめられるようにしてください。</li> <li>・ さまざまな用具を使うため、安全にも配慮し、授業中は集中して取り組んでください。</li> <li>・ 作業に適した服装は、各自で用意してください。</li> </ul>
<b>自己評価のポイント</b> *それぞれの題材や活動のまとめりにごとに評価シートを用いて学習をふりかえるためのチェック項目です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材や活動に対して関心が高まったり、意欲的をもって取り組めたか。</li> <li>・ 美しさを受け止める感覚（感性）を生かして、表現活動に取り組み、作品制作の過程を通して感じる喜びや楽しさを味わおうとしたか。</li> <li>・ 感性や想像力をはたらかせて、自然や身の回りの造形、美術作品などのよさや美しさを感じ取ることができたか。</li> <li>・ 自分の表現意図に合った方法を、工夫したり見通しを持ったりできたか。</li> <li>・ 創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けられたか。</li> <li>・ 美術作品を鑑賞するポイントを理解し、それらのよさや美しさを味わうことができ、自分の考えを述べることができるか。</li> <li>・ 美術について、作者、生活や自然との関連、日本の美術の歴史などを理解することができたか。</li> </ul>

## 《前期》

時間領域	題材・テーマ [教科書]	学習内容・ねらい	理解のためのポイント	提出物 作品名	自己評価の 記述欄
1	オリエンテーション [p. 2- 5]	・ 学習計画を把握したり、授業にのぞむ心構えを理解する。	制作のねらい、予定、準備するものを確認する。自己評価の意義や方法を確認する。	プリント	
2 ・ 5 表現	絵画・彫刻 1生き生きと描く [p. 6- 7]	・ 動植物を生命感が表せるようにスケッチし、水彩色鉛筆を用いて作品を完成させる。	制作前の印象や制作過程で発見したことをメモして、制作に反映させる。	作品票	
6 ・ 8 鑑賞	絵画・彫刻 6 屏風画にみる花 [p.16-17] 9 アートは地球をつなぐ [p.18-19]	・ 自然の美を表現した屏風画などの伝統的な日本画を、これまで自分の見てきた絵画と比べながら鑑賞する。 ・ 日本の浮世絵がヨーロッパの作風に与えた影響に注目し、西洋絵画の変化を考えながら作品を鑑賞する	日本画の伝統的な表現方法や画材、モチーフの特徴を確認し、それを生かすための画材の効果を考える。 西洋絵画と日本の浮世絵の違いに着目し、西洋の芸術に与えた影響を実感する。	プリント  プリント	
9 ・ 15 鑑賞	絵画・彫刻 9 楽しい時間 [p.22-23] 10 心の中の情景 [p.24-25] 11 抽象絵画 [p.26-27]	・ 絵の中に込められた楽しさの要素を考え、作者の心情をくみとりながら作品を鑑賞する。 ・ 絵から受けるイメージを自分の体験や心の動きと関連させ、感覚的なとらえ方でまとめる。 ・ 絵から受けるイメージを生徒同士出し合っってディスカッションを通して、題名と関連させたり、他の作品と比較しながら、自らの考えを深める。	絵画の多様な表現方法の可能性を実感する。作品と自分の体験をまとめる。 美術館で実際に作品を鑑賞し、特徴や感想をまとめる。	プリント  鑑賞 レポート	
16 ・ 23 表現	絵画・彫刻 12 銅版画の表現 [p.28-29]	・ ドライポイントの技法の効果が生かせるようなモチーフを選び、魅力あふれる作品を完成させる。	版画の技法に着目し、その技法と効果について理解を深め、自分の表現に生かせるようにする。	作品票	
24 ・ 31 表現	絵画・彫刻 14 手のぬくもりを感じながら [p.32-33]	・ 塑像の技法を習得しながら、人間のもつ美しさを表現できるように頭像を完成させる。	塑像の技法に慣れ、表情豊かで人間のもつ美しさがよくあらわれた作品に仕上げる。	作品票	
32 ・ 35 鑑賞	絵画・彫刻 16 日本の木彫 [p.36-37] 17 動物彫刻 [p.37-38]	・ 西洋の作品と比較したり、自分の身のまわりの玩具やき木で作られた工芸品等との関連を考えながら、仏像など日本の伝統的な木彫の作品を鑑賞する。 ・ 素材の違いを比較したり、作者の発想を考えたりして、身近な動物を題材にした彫刻の作品を鑑賞する。	作者の発想や用途、地域性の違いを考えながら作品を鑑賞するとともに、作品に込められた作者の優しいまなざしや情熱、精神などを感知取る。	プリント	